

契約上ノ債務回収ノ為ニスル兵力使用ノ制限ニ関スル条約

署名 一九〇七年一月八日(ハーグ)

効力発生 一九〇一年一月二六日

日本国 一九二二年二月一日(一九二一年一月六日批准、
一月二三日批准書寄託、一九二一年一月三日公布・条約二号)

当事国 二八

独逸(ドイツ)皇帝普魯西(プロシア)国皇帝陛下(以下署名国元首名略)ハ、一國ノ政府ニ対シ他ノ一國ノ政府力其ノ国民ニ支払ハルヘキモノトシテ請求スル契約上ノ債務ヨリ生スル金銭上ノ原因ニ基ク武力的衝突ノ國家間ニ生スルヲ避ケムコトヲ希望シ、之カ為条約ヲ締結スルニ決シ、各左ノ全權委員ヲ任命セリ。(全權委員名略) 因テ各全權委員ハ、其ノ良好妥當ナリト認メラレタル委任状ヲ寄託シタル後、左ノ条項ヲ協定セリ。

第一条【兵力使用の禁止】 締約国ハ、一國ノ政府ニ対シ他ノ一國ノ政府力其ノ国民ニ支払ハルヘキモノトシテ請求スル契約上ノ債務ヲ回収スル為ニ、兵力ニ訴ヘサルコトヲ約定ス。

右規定ハ、債務国力仲裁裁判ノ申出ヲ拒絶スルカ、之ニ対シテ回答ヲ与ヘサルカ、之ヲ受諾スルモ仲裁契約ノ作成ヲ不能ナラシムルカ、又ハ仲裁裁判ノ後其ノ判決ニ遵ハサル場合ニハ、其ノ適用ナキモノトス。

第二条【仲裁裁判】 前条第二項ニ掲ケル仲裁裁判ハ、國際紛争平和的処理ニ関スル海牙(ハーグ)条約第四章第二節ニ規定セル手續ニ依ルモノトス。仲裁裁判ノ判決ハ、当事者間ニ特別ナル取極アルニ非サレハ、請求ノ当否、債務ノ金額並支払ノ時期及方法ヲ定ム。

第三条【批准】 本条約ハ、成ルヘク速ニ批准スヘシ。

批准書ハ、海牙ニ寄託ス。

第一回ノ批准書寄託ハ、之ニ加リタル諸國ノ代表者及和蘭(オランダ)国外務大臣ノ署名シタル調書ヲ以テ之ヲ証ス。

爾後ノ批准書寄託ハ、和蘭國政府ニ宛テ且批准書ヲ添附シタル

通告書ヲ以テ之ヲ為ス。

第一回ノ批准書寄託ニ関スル調書、前項ニ掲ケタル通告書及批准書ノ認証謄本ハ、和蘭國政府ヨリ、外交上ノ手續ヲ以テ、直ニ之ヲ第二回平和會議ニ招請セラレタル諸國及本条約ニ加盟スル他ノ諸國ニ交付スヘシ。前項ニ掲ケタル場合ニ於テハ、和蘭國政府ハ、同時ニ通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スルモノトス。

第四条【加入】 記名國ニ非サル諸國ハ、本条約ニ加盟スルコトヲ得。

加盟セムト欲スル國ハ、書面ヲ以テ其ノ意思ヲ和蘭國政府ニ通告シ、且加盟書ヲ送付シ、之ヲ和蘭國政府ノ文庫ニ寄託スヘシ。和蘭國政府ハ、直ニ通告書及加盟書ノ認証謄本ヲ第二回平和會議ニ招請セラレタル爾余ノ諸國ニ送付シ且右通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スヘシ。

第五条【効力発生】 本条約ハ、第一回ノ批准書寄託ニ加リタル諸國ニ対シテハ其ノ寄託ノ日附ヨリ六十日後、又其ノ後ニ批准シ又ハ加盟スル諸國ニ対シテハ和蘭國政府力右批准又ハ加盟ノ通告ヲ接受シタルトキヨリ六十日後ニ、其ノ効力ヲ生スルモノトス。

第六条【廃棄】 締約國中本条約ヲ廃棄セムト欲スルモノアルトキハ、書面ヲ以テ其ノ旨和蘭國政府ニ通告スヘシ。和蘭國政府ハ、直ニ通告書ノ認証謄本ヲ爾余ノ諸國ニ送付シ、且右通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スヘシ。

廃棄ハ、其ノ通告力和蘭國政府ニ到達シタルトキヨリ一年ノ後右通告ヲ為シタル國ニ対シテノミ効力ヲ生スルモノトス。

第七条【寄託の帳簿】 和蘭国外務省ハ、帳簿ヲ備ヘ置キ、第三條第三項及第四項ニ依リ為シタル批准書寄託ノ日並加盟(第四條第二項)又ハ廃棄(第六條第一項)ノ通告ヲ接受シタル日ヲ記入スルモノトス。

各締約國ハ、右帳簿ヲ閱覽シ、且其ノ認証抄本ヲ請求スルコトヲ得。

留保

亞爾然丁(アルゼンチン)國
亞爾然丁共和國ハ、左ノ留保ヲ為ス。
一 一國ノ人民ト外國政府トノ間ニ於ケル普通ノ契約ニ基ク債務ニ関シテハ、予メ一切ノ手續ヲ尽シタルモ、尚契約ヲ為シ

タル國ノ裁判所カ裁判ヲ為サル特別ノ場合ニ非サレハ、仲裁裁判ニ依ルコトナカルヘシ。

二 証券ノ発行ヲ以テスル公債ニシテ國債ヲ成スモノハ、如何ナル場合ニ於テモ、亜米利加諸國ノ土地ニ対シ軍事侵略又ハ事實的占領ノ原由ト為ルコトナカルヘシ。

「ポリウィア」國
第一委員會ニ於テ表明シタル留保ヲ為ス。

格倫比亞(コロンビア)國
格倫比亞國ハ、左ノ留保ヲ為ス。
格倫比亞國ハ、如何ナル場合ニ於テモ、債務ノ性質如何ニ拘ラズ、之ヲ回収スル為兵力ヲ使用スルコトヲ承諾セス、又債務國ノ裁判所ノ確定判決ノ後ニ非サレハ、仲裁裁判ニ付スルコトヲ承諾セス。

「ドミニカ」共和國
千九百七年十月十六日ノ總會議ニ於テ為シタル留保ヲ為ス。
「エクアドル」共和國
千九百七年十月十六日ノ總會議ニ於テ為シタル留保ヲ為ス。

希臘(ギリシア)國
十月十六日ノ總會議ニ於テ為シタル留保ヲ為ス。
「グワテマラ」國
一 一國ノ人民ト外國政府トノ間ニ於ケル普通ノ契約ニ基ク債務ニ関シテハ、予メ一切ノ手續ヲ尽シタルモ、尚契約ヲ為シタル國ノ裁判所カ裁判ヲ為サル特別ノ場合ニ非サレハ、仲裁裁判ニ依ルコトナカルヘシ。

二 証券ノ発行ヲ以テスル公債ニシテ國債ヲ成スモノハ、如何ナル場合ニ於テモ、亜米利加(アメリカ)諸國ノ土地ニ対シ軍事侵略又ハ事實的占領ノ原由ト為ルコトナカルヘシ。

秘魯(ペルー)國
本条約ニ定メタル原則ハ、一國ト外國臣民トノ間ニ締結シタル契約ニ基ク要求又ハ紛争ニ付、右ノ契約中ニ要求又ハ紛争カ該國ノ裁判官及裁判所ニ訴ヘラルヘキコトヲ明白ニ規定シタル場合ニ之ヲ適用シ得サルコトヲ留保ス。

「サルヴァドル」國
上記亞爾然丁國ト同一ノ留保ヲ為ス。
「ウルグエー」國
委員ハ、疑議又ハ紛争ヲ生セシメタル契約以前ノ債務國ノ基本



法ニ於テ又ハ該契約ニ於テ右疑議又ハ紛争カ該国ノ裁判所ニ依
リ決定セラルヘキモノナルコトヲ定メタルトキハ、常ニ当然仲
裁裁判ヲ拒絶シ得ヘキモノト認ムルヲ以テ、第一条第二項ヲ留
保ス。

